

職場の民主化部会

西田 昭司

今、教育の職場にメッセージを

職場の民主化部会では、年々厳しくなる職場の状況を明らかにしつつ、その背景には、教育に対するどのような攻撃があるのかなどを議論してきました。

こうした議論をもとに、職場を励ますメッセージを送ることができないかということを考えています。ただ励ますだけではなく、「教育に対する攻撃」に反撃することができればという考えです。メッセージというより呼びかけのようなもので、まだ、検討中ですが、以下いくつかを挙げてみます。

・言うべき時にはものを言おう・「これは」と思うことには黙っていない

…「言うべき時」とか『「これは」と思うこと』とは、「それでまともな教育活動ができるのか」「子どもと教職員の関係を壊してしまっているのか」「子

もの人間としての成長・発達はかかれるのか」「子どもの人権は守られているのか」など、実際の場面では様々あるかと思えます。

・パソコンの手を休めて、子どもの話をしよう・ちよつとおしゃべりする時間、空間を作ろう

…これは、教職員がばらばらにされている現状を変えていこうというメッセージです。

・できるだけ多くの人とつながりを持つ・不満を出し合う関係や、何でも話ができる関係をつくる・子どものことを自分から話題にしていく・職員会議で、誰もが意見を言える雰囲気を作る

…教職員同士の繋がりを断ち切ることは、上意下達の体制を貫徹する側にとって重要です。だからなおさら教職員同士

の繋がりを作ることはとても重要な意味を持ちますし、誰もが意見を言える職場にすることは、極めて重要です。

九月十六日、第二九回東京民研・共同研究集会がありました。そこでは、「ゼロトランス」による指導を強制されながら苦悩する教職員の姿と、それに対して、様々な教職員の交流や学習会を行う中で、組合員も増え、職場の状況を変えていく様子が報告されました。授業実践報告では、教科書通り・指導要領通りの授業が強制される中で、それに縛られず、子どもの姿から発発することの重要性が報告されました。どちらの報告も、子ども達の気持ちを探り、しっかり受けとめる事なしに、形だけ物事を進行させることの反教育性が浮き彫りになりました。

最後に、東京民研の高原さんがまとめた「二つの柱：『職場の理不尽』をほっておかないこと、『授業や子どもの見方』をまわりの人に語ろう」をもとに、職場の雰囲気を変えよう」の呼びかけは、私たちの考えと全く重なるものです。教育職場を民主的に変えていくために、頑張ってくださいませよう。（共同研究者）